

教誨師連盟だより

No. 47

発行所
(公財)全国教誨師連盟

〒165-0026
東京都中野区新井3-37-2
電話 03-3389-7411
FAX 03-3387-3460
E-mail: zenren@soleil.ocn.ne.jp

公益財団法人全国教誨師連盟理事会における挨拶

法務省矯正局長 西 田 博

公益財団法人全国教誨師連盟の平成二五年度の定例理事会が開催されるに当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

皆様には、平素から矯正行政への深い御理解と御支援を賜り、まずは、この場をお借りしまして、改めて厚く御礼申し上げます。また、本連盟の運営につきましても、役員として一方ならぬ御尽力をされておられますことに、心から敬意を表する次第です。

宗教教誨活動は、被收容者・在院者の信教の自由を保障し、宗教的情操及び罪しよう感をかん養するとともに、罪の意識に苦しむ被收容者・在院者の心を救い、さらには、更生の契機を与えることに大いに寄与するところであり、今後も、教誨師の皆様が、被收容者・在院者の処遇において重要な役割を果たしていくものと考えております。

本日の理事会におきましては、多くの重要課題が話し合われるとありますが、その成果が今後の連盟の一層の発展に資するものとなりますよう願っております。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と御活躍、並びに全国教誨師連盟のますますの御発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

平成二六年二月二七日

＊平成二五年度事業報告

一 教誨師研修会関係

1 第四八回教誨師中央研修会（JKA補助事業）

開催日 平成二五年九月二日～四日

場所 東京都千代田区 法務省地下大会

議室

参加者 総数 一四七名

教誨師一三一名・聴講者七名・矯正施設関係者五名・その他関係者

四名

目的

刑事施設に所属する教誨師で五年以上の経験を有し、かつ、教誨師委嘱以来中央研修会出席経験のない教誨師を対象に、刑事政策の現状や矯正施設の収容動向を理解し、また、教誨活動のあり方について研究討議を行い、もって教誨活動にかかる知識の習得や技術の向上を図る。

基調講演

「矯正の現状 ～刑事施設における再犯防止の新たな取組～」

法務省矯正局成人矯正課長

大橋

哲氏

記念講演

「北をめざした教誨師たち
～明治北海道での事蹟をたどって～」

作家

成田

智志氏

教誨実務

「指導案の作成と実践」

講師

黒羽 刑務所所属教誨師 合群 信哉

府中 刑務所所属教誨師 今田 忠彰

講師紹介

全国教誨師連盟企画委員 伊佐 榮豊

シンポジウムI

「いま、教誨に願われていること」

コーディネーター

龍谷大学法科大学院教授

石塚 伸一氏

パネラー

元名古屋矯正管区長

古川 高志氏

更生保護法人全国保護司連盟顧問

宮川 憲一氏

府中 刑務所所属教誨師 芝田 正順

司会・紹介

全国教誨師連盟企画委員 遠藤 了義

シンポジウムII 質疑応答

司会

全国教誨師連盟企画委員 遠藤 了義

成果

研修会実施前に、参加基準に該当する教誨師の人数を調査したところ、概数ではあるが全国で七五〇名余のものを踏まえ、例年の一・五倍の規模で実施した。内容としては、従来の協議会に代えてシンポジウムを実施し、パネラーとして矯正施設勤務経験者、保護司及び教誨師の三人からそれぞれ発表をいただき、コ

ディネーターの司会により活発な意見交換が行われ、各分野の連携の重要さを再認識した。また、大橋成人矯正課長の講演「矯正の現状」を拝聴して矯正行政の現状について理解を深めることができ、更に記念講演「北をめざした教誨師たち」により、教誨師の歴史にも触れることができたことにより、知見を広めた。

参加した教誨師にとつて今後の教誨活動に大いに有用になるものと思われる。

2 第四九回札幌矯正管区教誨師研修大会（JKA補助事業）

開催日 平成二五年六月二〇日～二一日

場所 函館市 ロワジュールホテル函館

参加者 総数 一一八名

教誨師七二名・矯正施設関係者三四名・その他関係者一二名

主題 「いま、教誨に願われていること」

副題 「寄り添う教誨」

目的

被収容者と共に歩める存在になれるように研さんを積み、資質の向上を目指す。

記念講演

「更生保護が目指すもの」

函館保護観察所長

研究発表

・「陽気ぐらし」の心呼び戻そう」

月形 刑務所所属教誨師 永関 正元

・「自分なりの教誨師に」

千歳教誨師会所属教誨師 安田 肇善

・「きょうかいのないきょうかい」
釧路刑務支所所属教誨師 八村 弘英
成 果

本研修大会の主題である「いま、教誨に願われていること」(副題「寄り添う教誨」)に基づき、研修大会を実施した。

吉田千枝子氏の記念講演は、出所者の生活を援助する更生保護とは具体的にどういうことをするのか、今後どのような方向にいかうとしているのかを、自らの経験と豊富な事例に基づき、副題である「寄り添う」ひとつの形を提示した内容であった。氏の記念講演は、矯正職員にとっても、更生したいと考える出所者に対してどのようなサポートが行われるかについて、大いに参考になる内容であった。

また、三名の教誨師による研究発表も研修目的に沿ったものであり、質疑応答も活発に行われるなど、研修本来の目的は十分に達成したものとと言える。

3 第五回仙台矯正管区教誨師研修山形大会 (JKA補助事業)

開催日 平成二五年一〇月一七日～一八日

場 所 山形市 山形グランドホテル

参加者 総数 二三八名

教誨師八四名・矯正施設関係者

三一名・その他関係者二三名

主 題 「いま、教誨に願われていること」

副 題 「とともに歩む宗教教誨を目指して」

目的

仙台矯正管区教誨師連盟所属の六県の教誨師が一堂に会し、矯正施設における被収容者の宗教教誨による教化方策について研究討議する。

研究討議

「生きる術・生きる知恵・生きる力

とともに歩む宗教教誨を目指して」

発表者

青森県教誨師会所属教誨師 大屋 俊考

福島県教誨師会所属教誨師 芝田 宣広

宮城県教誨師会所属教誨師 遠藤 龍宗

岩手県教誨師会所属教誨師 一條 善人

発表応援者

青森刑務所首席矯正処遇官

加藤 哲氏

福島刑務所統括矯正処遇官

竹川 聡 嗣氏

東北少年院首席専門官

佐藤 浩一氏

盛岡少年院首席専門官

神野 賢 治氏

記念講演

「事実にも覆われた人の心や真実に迫る作家

の視点」

作 家 柚月裕子氏

全体協議会

成 果

大会テーマ「いま、教誨に願われていること」及び研究討議題「生きる術・生きる知恵・生きる力とともに歩む宗教

教誨を目指して」に基づき、発表者が各自副題を設定の上、被収容者に対し、普段から行っている宗教教誨活動の具体的な実践例を通して、宗教教誨の在り方を検討した。

また、記念講演においては、「事実にも覆われた人の心や真実に迫る作家の視点」と題し、作品の中で犯罪という行為を通して人間の心の内側を描く柚月氏の講演を通して、「いま、教誨に願われていること」について深く考える機会を得た。研究討議と記念講演により得たものは、今後の宗教教誨活動の充実化及び活発化につながるものと思われる。

4 第五回東京矯正管区教誨師研修神奈川大会 (JKA補助事業)

開催日 平成二五年六月一九日～二〇日

場 所 横浜市 横浜ベイシエラトン&タワーズ

参加者 総数 三三六名

教誨師二〇七名・矯正施設関係者

一〇八名・その他関係者二二名

主 題 「いま、教誨に願われていること」

副 題 「被収容者から期待される宗教教誨」

目的

目的

宗教教誨の重要性は、社会復帰をめざす被収容者の改善更生に資するにあり、本大会では被収容者が被害者の視点に立ち、自らの更生に向かう教誨を考える。

研究討議

第一部 少年施設の部

発題者

八街少年院所属教誨師 石川 隆教

助言者

八街少年院首席専門官

山下 嘉一氏

第二部 A指標施設の部

発題者

黒羽刑務所所属教誨師 左近士玄雄

助言者

黒羽刑務所統括矯正処遇官

森 寛氏

第三部 B指標施設の部

発題者

水戸刑務所所属教誨師 藤本 真教

助言者

水戸刑務所教育専門官

鈴木 浩氏

記念講演

「今、私たちに出来ることはなにか」

ジャーナリスト 櫻井 よし子氏

成果

多くの東京矯正管区内教誨師、施設職員、来賓に参加いただき、矯正施設での教誨のあり方について熱のこもった討議が行われた。今大会研修課題に基づき、「被収容者から期待される宗教教誨」を共通テーマとして、第一部から第三部の発表が行われ、それぞれの発表に対して多くの質疑応答が行われた。

三名の発題者による発表のほか、二一

名の会員から誌上発表原稿が寄せられ、こちらについても、休憩時間等においても関係者に声掛けして質問や意見を交わす参加者が多くみられた。

これらの発表原稿に基づく討議の結果、参加者は被収容者の改善更生により一層寄り添うべく意見を集約して教誨を行うことを確認し、今大会宣言文が提案・審議され、承認されるに至ったものである。

5

第五七回名古屋矯正管区教誨師研修大会 (JKA補助事業)

開催日 平成二五年六月一三日～一四日

場所 津市 ホテルグリーンパーク津

参加者 総数 一一一名

教誨師六四名・矯正施設関係者 三六名・その他関係者一名

主題 「いま、教誨に願われていること」

副題 「人と人とのつながりを感じられる宗教教誨を目指して」

目的

東日本大震災後、日本は「絆」という言葉に象徴されるように人と人とのつながり、支えあうことの大切さを深く感じるようになった。

矯正施設に収容される人たちの中には、家族等と離れて改めて人とのつながりを再認識する者や、社会では充分に頼るべき人がおらず、孤独感を感じている者など、そこには様々な人とのつながりが存在する。

いずれ、彼らが社会復帰し、社会の一

員として人々の中で暮らしていく中で、人から支えられていること、また、決して一人ではなく社会の中に他者とのつながりが存在することを深く感じてもらえるような教誨活動の在り方を探る。

基調講演

「グループの持つ力」

京都橘大学准教授

ジェイムス 朋子氏

研修会

演習「グループワーク体験と質疑応答」

講師 京都橘大学准教授

ジェイムス 朋子氏

記念講演

「生命宇宙と宗教」

映画監督 龍村 仁氏

成果

今回の研修会のテーマは、現在の矯正行政の流れを理解し、さらにそれを体験することにあつた。特にグループワークは、処遇技法として実施しているだけではなく、孤立化する個々をお互いに理解し、繋がっていくための一つの方法として施設で実施しているものである。そこで、本年度は新たな試みとして実践的・体験的・能動的な研修会とするために分科会形式から変更した。

当初は、体験的なグループワークの実施に一部不安の声もあったが、参加した教誨師からは「グループワークは、大変良い経験となった。」と好意的な意見が

多く寄せられたことから、研修方法としては適切であり、当初の研修目的が十分に果たされたものと思料する。

しかし、その一方で、「このグループワークの経験をどのように深めていけばいいのかまでの説明がほしかった。」との意見も寄せられた。

また、記念講演は、参加教誨師からおおむね好評を得られたが、広報不足から一般参加が見られず、たとえ著名な映画監督であっても、広報活動が必要であると分かった。

なお、大会テーマに対しては、「大きすぎる」、「研修内容と一致していない」との意見が見られ、主催者側はテーマに沿っての講演や研修会を企画したが、いまいち理解しにくかったようである。

その他、アンケート結果には「施設職員の負担を減らすべき。」との意見も見られた。

6

第六一回大阪矯正管区教誨師研修会

開催日 平成二五年一月一九日

場所 大阪市中央区

難波別院(南御堂) 同朋会館

参加者 総数 一九四名

教誨師一二四名・聴講三名・来賓

二四名・矯正施設関係者四三名

主題 「いま、教誨に願われていること」

副題 「人は縁によって生まれ変わる」

目的 教誨活動の研鑽と充実を目指して

体験発表

・「更生教育鳥瞰図」

奈良少年刑務所・奈良少年院所属教誨師

宮谷 泉

・「お米が伝える日本の心」

和歌山刑務所所属教誨師 西尾 酒子

・「人は縁によって生まれ変わる」

大阪刑務所所属教誨師 藤園 堅正

講演

「慚愧有るがゆえに人となす 慚愧無きを畜生となす」

同朋大学教授・仏教学者

中村 薫氏

成果

多数の教誨師の参加を得て、大会テーマ及びサブテーマに沿って、三名の教誨師の体験発表と講演が行われ、教誨活動の充実を図る上で大変有意義な内容であった。初期の目的は達成できた。

7

第二五回広島矯正管区教誨師研修会(丁K A補助事業)

開催日 平成二五年六月二七日

場所 鳥取市 ホテルモナーク鳥取

参加者 総数 一一四名

教誨師六一名・矯正施設関係者

四九名・その他関係者四名

主題 「いま、教誨に願われていること」

副題 「社会の要請、再犯防止に込める

目的 教誨」

社会的に要請されている再犯防止の諸

施策に理解を深め、受刑者の健全な社会

復帰に向けた効果的な教誨活動に資することを目的とする。

基調講演

「地域生活定着支援センターの役割について」

社会福祉法人鳥取県厚生事業団地域支援

総合センター相談主幹 兼 総務企画主幹

鳥取県地域生活定着支援センター相談員

齋木 尚也氏

講演

「受刑者の再犯防止に向けた釈放後の『居場所』と『出番』の確保に向けた取組について」

鳥取刑務所分類統括

山本 大輔氏

社会福祉士 玉木 由紀氏

成果

アンケートの集計結果をみると、「二つの講演のテーマに関連性があり、時代に即しており、社会の要請も捉えていた。」という意見が多く、評価は高かった。講演は、高齢で身寄りがなく障がいを持つ受刑者が再犯に及ばないよう、出所後に直面する問題に対し、国・県・刑事施設の連携により、特別調整等の支援を実施しているという内容であった。

参加者からは、「このような支援が行われていたとは知らなかった。大変勉強になった。」という感想も寄せられた。

8

第四一回高松矯正管区教誨師研修大会(丁

K A補助事業)

開催日 平成二五年七月一〇日～一一日

場所 松山市 いよてつ会館

参加者 総数 八一名

教誨師四四名・来賓一三名・矯正

施設関係者二四名

主題 「いま、教誨に願われていること」

副題 「生きる意味を考える教誨をめざして」

目的

四国四県の教誨師と関係職員が一堂に会し、生きる意味を考える宗教教誨を被収容者に対して行うための方策を考える。

研究発表

・「輝いて生きよう」

徳島刑務所所属教誨師 岡本 慈勝

・「いま、教誨に願われていること ―生きる意味を考える教誨をめざして―」

高松刑務所所属教誨師 島崎 敬童

・「いま、教誨に願われていること」

丸亀少女の家所属教誨師 藤井 隆彦

基調講演

「子育てを支える

―今社会に問われること―」

松山東雲女子大学特任教授

塩崎 千枝子 氏

分科会

・第一部会

座長

松山刑務所所属教誨師 門田 和明

助言者

徳島刑務所首席矯正処遇官

由本 隆行 氏

高松刑務所統括専門官

吉岡 精二 氏

・第二部会

座長

松山学園所属教誨師 二神 瑞隆

助言者

高松刑務所統括矯正処遇官

池西 幸則 氏

四国少年院統括専門官

北山 整 氏

・分科会報告

司会者

松山刑務所所属教誨師 城崎 淳

報告

松山刑務所所属教誨師 門田 和明

松山学園所属教誨師 二神 瑞隆

助言者

高松矯正管区成人矯正第二課長

金谷 道範 氏

成果

経験年数の少ない教誨師一名、経験年数の豊かな教誨師二名が、自らの教誨活動に基づく研究発表をした。いずれも苦労している点等を誠実かつ熱心に発表し、出席者に感銘を与えていた。

また、松山東雲大学特任教授 塩崎千枝子氏の講演については、子育て及び子育てを助けることの難しさについての内

容であり、被収容者の改善更生を導く難しさと相通ずるものがあって、今後の教誨活動に参考となった。

9 第四〇回福岡矯正管区教誨師研修熊本大会

(JKA補助事業)

開催日 平成二五年一〇月二九日～三〇日

場所 熊本市中央区

熊本ホテルキャッスル

参加者 総数 一七三名

教誨師一〇名・来賓六名・矯正

施設関係者五七名

主題 「いま、教誨に願われていること」

副題 「宗教教誨を通して、共に罪の自覚といのちの尊厳にめざめて生きる」

目的

わたしたちは教誨を通して、罪ふかき存在である人間と現実の自己をみつめ、いのちの尊厳にめざめて生きることを願う、この大会を開催する。

記念講演

「見えるお金と見えないのち」

菊池養生園名誉園長・「伝承館」館長

竹熊 宜孝 氏

分科会

・第一部会 個人教誨の部

発表者

熊本刑務所所属教誨師 芥川 龍浄

「個人教誨実施日と内容(二四年度分)」

発表者

大分刑務所所属教誨師 河野 全厚

「法華教」と『日蓮聖人御遺文』に見る
罪の自覚について」

司会

熊本刑務所所属教誨師 赤星 善生

助言者

熊本刑務所教育統括

水上 武博氏

第二部会 グループ教誨の部

発表者

熊本刑務所所属教誨師 甲斐 孝文

「宗教教誨に望むもの」アンケート集

計報告」

発表者

長崎刑務所所属教誨師 藤本 俊春

「私の教誨について」

司会

熊本刑務所所属教誨師 金 聖孝

助言者

熊本刑務所企画首席

森 哲也氏

第三部会 少年施設の部

発表者

人吉農芸学院所属教誨師 藤岡 孝教

「私の宗教講話」

発表者

中津少年学院所属教誨師 小西美智子

「生かされていること」

発表者

佐世保学園所属教誨師 水町 宗典

「いのちを自覚する心を育む」

司会

人吉農芸学院所属教誨師 松崎 義治
助言者

人吉農芸学院企画統括

船川 英樹氏

成果

ア 記念講演

竹熊宜孝氏の講演については、

(ア) 人間という存在が、そもそも罪深い

ものであることを自覚する。

(イ) アを踏まえ、被収容者と教誨師がと

もに命の尊厳にめぐめて生きていく。

という、大会趣旨のもと講演が行われた。

その講演は、生命の根幹について考えさ

せられる内容であり、教誨師、職員とも

ども、生命について改めて考えさせられ

るものであった。

イ 分科会

(ア) 個人教誨の部

個人教誨は被収容者の精神的煩悶に

対して、教誨師が宗教家としての立場

で寄り添いながら、命の尊厳を自覚さ

せていくという、教誨活動の根本とも

言えるものである。今回の分科会発表

により、前記事項を確認するとともに、

今後個人教誨を充実させるために、教

誨師側、施設職員側で何ができるかに

ついて、双方の立場から白熱した議論

が行われた。

また、罪の自覚という点からは、教

誨師が被収容者の心情を受け止めつつ、

一方で犯罪被害者の心情を伝え、考え

させることを通じ、自己の罪に向き合

わせて、社会の要請に添えていくかが

課題となり、議論が展開された。

(イ) グループ教誨の部

各施設で集合教誨が広く実施されて

いるため、参加者が最も多い分科会で

あった。発表施設は、各自施設の活動

を発表していた。その中で、今後一

層、グループ教誨の教誨参加者を増や

していく必要性や、個人教誨と比較し

て限られた時間と場所を生かしていか

に「生命の尊厳」や「罪の意識」とい

うことを伝えていくかについて、教誨

師と施設間で意見や議論が交わされた。

また、教誨師が実施効果を的確に把

握するために、グループ教誨における

講話の一方通行ではなく、受講者との

対話が今後一層必要ではないかという

意見が出るなど、教誨活動の充実と施

設の円滑な管理運営をどう両立させて

いくかについて、議論が行われた。

(ウ) 少年施設の部

主として少年施設関係者の職員や教

誨師の参加であった。教誨師は少年に

対し、どのようにして宗教心を涵養さ

せていき、罪の自覚や生きることの尊

さを教えていくか、また、職員は、少

年が可塑性を有するものであり、宗教

的な中立性を守りながら、いかに教誨

師の活動を支援していくかについて、

議論がなされた。

少年施設は、現在、犯罪被害者の視点から、少年の心に共感し寄り添いながら、どう自分の犯した罪と向き合わせ出院後の人生を歩ませていくかという課題を抱えており、教誨師、職員との間で活発な議論がなされた。

二 連絡調整関係

1 宗団代表者との連絡協議会

開催日 平成二五年六月二四日
場 所 京都府京都市 西本願寺 伝道本部 二階研修室一
出席者 総数 三二名
宗団代表者 一四宗団 一五名
全国教誨師連盟 一七名

議事

ア 報告事項

- 平成二四年度事業報告及び収支決算報告
- 平成二五年度事業計画及び収支予算について
- 第四八回教誨師中央研修会について
- 平成二四年度宗団賛助金収納状況について

イ 協議事項

- 教誨師の推薦基準について
- その他当面の諸問題について
- ウ 教宗団内における研修状況等について

2

第一四回在近京教宗団代表者との懇談会
開催日 平成二五年一〇月一五日

場 所 東京都文京区 真言宗豊山派宗務所会議室

出席者 総数 一九名

宗団代表者 一〇宗団 一名

全国教誨師連盟 八名

話題

ア 公益事業（教誨師研修等）の在り方について

イ 創立六〇周年記念大会の在り方について

ウ 教誨師の委嘱・解嘱状況について

エ 各教宗団の近況報告

オ その他

3 第一回法務省矯正局との意見交換会

開催日 平成二五年一二月二五日

場 所 東京都千代田区 照庵

出席者 総数 一四名

法務省矯正局 七名

全国教誨師連盟 七名

話題

ア 委員等旅費について

イ 教誨師の活動分野について

ウ その他

三 顕彰関係

生存者叙勲

九名

藍綬褒章

一三名

全国教誨師連盟総裁表彰

一九名

法務大臣感謝状

二五名

日本宗教連盟理事長感謝状

一二名

の方々が表彰されました。御芳名は別掲のとおりです。

四 各種刊行物等の発行

1 教誨師第四八号「教誨師中央研修会記録」

平成二六年三月に発行し、会員及び関係機関に配布。国立国会図書館に納入。

2 教誨師連盟だよりNo.四五・四六号

平成二五年七月及び一二月に発行し、会員及び関係機関に配布。

3 研修会の記録CD（平成二四年度分）

平成二五年六月に発行し、管区連盟等に配布。国立国会図書館に納入。

五 公益事業関係会議

1 企画委員会

開催日 平成二五年五月九日

場 所 東京都千代田区 法務省会議室

出席者 総数 一五名

議 事 第四八回教誨師中央研修会の目的・対象者・研修カリキュラム

2 シンポジウム打ち合わせ

開催日 平成二五年七月二三日

場 所 東京都中野区 矯正会館四階会議室

出席者 総数 九名

議 事 第四八回教誨師中央研修会のシンポジウムの内容について

3 企画実行委員会

開催日 平成二五年八月八日

場 所 東京都千代田区 法務省会議室

出席者 総数 二二名

議 事 第四八回教誨師中央研修会の役割
分担
4 評価委員会
開催日 平成二五年九月一〇日
場 所 東京都千代田区 法務省会議室
出席者 総数 六名
議 事 第四八回教誨師中央研修会の第一
回目評価

5 評価委員会
開催日 平成二六年三月一〇日
場 所 東京都千代田区 法務省二〇階会
議室
出席者 総数 八名
議 事 第四八回教誨師中央研修会の第二
回目評価

6 第四回教誨マニュアル作成準備委員会
開催日 平成二五年五月一日
場 所 東京都中野区 矯正会館四階
出席者 総数 一二名
議 事 これまでの審議内容の再確認
執筆担当について
教誨事例集について
今後の予定について

7 第五回教誨マニュアル作成準備委員会
開催日 平成二五年七月一日
場 所 東京都中野区 矯正会館四階
出席者 総数 一〇名
議 事 執筆及び内容の担当について
その他

8 第六回教誨マニュアル作成準備委員会
開催日 平成二五年九月三〇日
場 所 東京都中野区 矯正会館第二会議
室
出席者 総数 一一名
議 事 執筆担当、内容について
その他

9 第七回教誨マニュアル作成準備委員会
開催日 平成二五年一二月五日
場 所 東京都中野区 矯正会館第二会議
室
出席者 総数 一〇名
議 事 矯正用語の掲載内容について
その他

10 第八回教誨マニュアル作成準備委員会
開催日 平成二六年二月四日
場 所 東京都中野区 矯正会館第二会議
室
出席者 総数 一〇名
議 事 矯正用語の掲載内容について
その他

***平成二五年度受賞者御芳名**

※生存者叙勲（九名）

朝倉 俊次 真宗大谷派 京都刑務所
伊藤 如顯 日 蓮 宗 三重刑務所
榎本 修純 高野山真言宗 静岡刑務所
曾我 祐賢 真宗大谷派 静岡刑務所
服部 春男 シャロームキリスト福音館
水戸刑務所

※全国教誨師連盟総裁表彰（一九名）

稲垣 孝道 浄 土 宗 旭川刑務所
増田 廣神 浄土真宗本願寺派 水戸刑務所
小保方教圓 天 台 宗 喜連川少年院
ハビエル・ガラルダ 喜連川社会復帰促進センター
カトリック 府中刑務所

※藍綬褒章（二三名）

大網 義明 原始真宗 水戸刑務所
工藤 元俊 曹 洞 宗 山形刑務所
中山 忠彦 立正佼成会 元金沢刑務所
三田村龍幸 日 蓮 宗 久里浜少年院
榊 武繁 神社本庁 秋田刑務所
長澤 普天 浄 土 宗 京都刑務所
仲間 喜福 セブンスデー・アドベンチスト教団
藤園 堅正 真宗大谷派 大阪刑務所
増井 誠太 日本フォースクエア福音教団
松島 法城 浄土真宗本願寺派 函館少年刑務所
宇賀 充 天 理 教 松山刑務所
織田 正尊 真宗大谷派 横浜刑務所
菊池 了邦 浄土真宗東本願寺派
白山 大慧 浄土真宗本願寺派 福岡少年院
田代 清隆 天 理 教 釧路刑務支所
原 真章 高野山真言宗 岡山少年院
三本 昭 日本メソヂスト教会協議会 釧路刑務支所

畑 年 神社本庁 東京拘置所
 小林 明雄 法華宗陣門流 横須賀刑務支所
 榎本 修純 高野山真言宗 新潟刑務所
 佐藤 博道 曹 洞 宗 静岡刑務所
 土井 克彦 臨濟宗妙心寺派 富山刑務所
 澤田 勇 日本基督教団 京都拘置所
 麻生 弘道 高野山真言宗 京都刑務所
 鈴木 眞 日本基督教団 大阪拘置所
 中野富士夫 バプテテスト 奈良少年刑務所
 長曾 龍生 曹 洞 宗 美 保 学 園
 日笠 徹 黒 住 教 岡 山 刑 務 所
 神田 照家 金 光 教 広 島 刑 務 所
 西村 宗純 臨濟宗妙心寺派 徳島刑務所
 門田 和明 真言宗豊山派 松山刑務所
 秦 秀道 真宗大谷派 福岡刑務所

※法務大臣感謝状(二五名)

梶原 陸尚 基督兄弟団 網走刑務所
 宮本 正尊 真宗大谷派 北海少年院
 山口 顯辰 日 蓮 宗 紫明女子学院
 谷津 良勝 カトリック 秋田刑務所
 服部 秀世 曹 洞 宗 喜連川社会復帰促進センター
 山名 義一 浄土真宗本願寺派 静岡刑務所
 ジェラルド・バリイ 千葉刑務所
 カトリック 府中刑務所
 長田 善生 浄 土 宗 喜連川少年院
 大喜多正洋 保守バプテテスト同盟

小島 不二 真言宗智山派 茨城農芸学院
 橋本 徳倫 曹 洞 宗 新潟刑務所
 堀 智仙 日 蓮 宗 富山刑務所
 神藤 敏弘 天 理 教 笠松刑務所
 加藤 光昭 浄 土 宗 豊橋刑務支所
 蘆田 恵岳 日 蓮 宗 福井刑務所
 田 明男 天 理 教 和歌山刑務所
 加藤 貫裕 日 蓮 宗 京都刑務所
 豊田 尚臣 カトリック 大阪医療刑務所
 南 尚浩 在日大韓基督教会 広島少年院
 迫野 忠次 天 理 教 岡山刑務所
 三谷 正美 天 理 教 山口刑務所
 前田 建司 大 本 鳥取刑務所
 黒田 道郎 日本基督教団 美 保 学 園
 高橋 嘉道 曹 洞 宗 徳島刑務所
 難波 光裕 浄土真宗本願寺派 熊本刑務所
 原 顕彰 日 蓮 宗 福岡刑務所
 伊達 廣三 曹 洞 宗 函館少年刑務所
 北條 祐勝 浄土真宗本願寺派 紫明女子学院
 鈴木 睦 真言宗智山派 宮城刑務所
 北畠 顯信 真宗大谷派 横 浜 刑 務 所
 大岡 義明 日本聖公会 名古屋拘置所
 櫻井 宥祥 高野山真言宗 大阪刑務所
 小松原幹夫 天 理 教 京都刑務所
 長谷川隆嶽 浄土真宗本願寺派 鳥取刑務所
 越智 瑞晃 真言宗豊山派 美 保 学 園
 高知刑務所
 松山刑務所

※日本宗教連盟理事長感謝状(一二名)

押見 正宏 曹 洞 宗 北海少年院
 原 顕彰 日 蓮 宗 紫明女子学院
 伊達 廣三 曹 洞 宗 函館少年刑務所
 北條 祐勝 浄土真宗本願寺派 宮城刑務所
 鈴木 睦 真言宗智山派 横 浜 刑 務 所
 北畠 顯信 真宗大谷派 名古屋拘置所
 大岡 義明 日本聖公会 大阪刑務所
 櫻井 宥祥 高野山真言宗 京都刑務所
 小松原幹夫 天 理 教 鳥取刑務所
 長谷川隆嶽 浄土真宗本願寺派 美 保 学 園
 越智 瑞晃 真言宗豊山派 高知刑務所
 松山刑務所

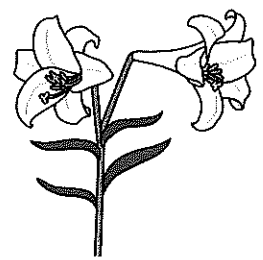
※平成二五年度物故者御芳名

謹んで哀悼の意を表します。

中山 清田 天 台 宗 川越少年刑務所
 小林 覚雄 浄 土 宗 長野刑務所
 梅田 秀夫 真宗大谷派 神戸拘置所
 富永 文雄 曹 洞 宗 長崎刑務所
 長曾 龍生 曹 洞 宗 美 保 学 園
 町田 真裕 神社本庁 佐世保刑務所
 木藪 喜三 天 理 教 中津少年学院
 加藤 恵肇 真宗大谷派 瀬戸少年院
 八田 弘樹 浄土真宗本願寺派 茨城農芸学院
 菊池 了俊 浄土真宗東本願寺派 秋田刑務所

いて掲載しました。

渡邊 進央 浄土真宗本願寺派 佐賀少年刑務所
 根生 一郎 天 理 教 川越少年刑務所
 神田 照家 金 光 教 広島刑務所
 全国教誨師連盟に報告のあった一三名の方につ



福島 法龍 浄土真宗本願寺派 鹿兒島刑務所

✿ 平成二五年度寄付者御芳名

(企業団体関係)

公益財団法人 矯正協会 様 金壹百萬円也
 公益財団法人 仏教伝道協会 様 金五拾萬円也
 石油連盟 様 金壹拾五萬円也
 一般社団法人 日本貿易会 様 金壹拾八萬円也
 興和株式会社 様 金壹萬円也
 阪和興業株式会社 様 金壹萬円也
 三菱商事株式会社 様 金壹萬円也
 岩谷産業株式会社 様 金壹萬円也
 蝶理株式会社 様 金壹萬円也
 丸紅株式会社 様 金壹萬円也
 長瀬産業株式会社 様 金壹萬円也
 住友商事株式会社 様 金壹萬円也
 日鉄住金物産株式会社 様 金壹萬円也
 伊藤忠商事株式会社 様 金壹萬円也
 兼松株式会社 様 金壹萬円也
 双日株式会社 様 金壹萬円也
 株式会社 日立ハイテクノロジーズ 様 金壹萬円也
 三井物産株式会社 様 金壹萬円也
 JFE商事株式会社 様 金壹萬円也
 豊田通商株式会社 様 金壹萬円也
 C B C 株式会社 様 金壹萬円也
 稲畑産業株式会社 様 金壹萬円也
 一般社団法人 日本電機工業会 様 金壹拾萬円也
 パナソニック株式会社 様 金五萬円也

三菱電機株式会社 様 金五萬円也
 一般社団法人 全国銀行協会 様 金壹拾萬円也

一般社団法人 日本建設業連合会 様 金壹拾萬円也
 一般社団法人 全国地方銀行協会 様 金五萬円也

日本証券業協会 様 金五萬円也
 日本鋳業協会 様 金五萬円也
 日本製薬団体連合会 様 金五萬円也
 大正製薬株式会社 様 金五萬円也

一般社団法人 信託協会 様 金貳萬円也
 東京商工会議所 様 金四拾貳萬円也

株式会社 東京都民銀行 様 金參萬円也
 大崎電気工業株式会社 様 金參萬円也
 住友林業株式会社 様 金參萬円也
 株式会社 資生堂 様 金參萬円也

三井金属鋳業株式会社 様 金參萬円也
 東京ガス株式会社 様 金參萬円也
 株式会社 三越伊勢丹ホールディングス 様 金參萬円也

東映株式会社 様 金參萬円也
 株式会社 伊藤園 様 金參萬円也
 三菱商事株式会社 様 金參萬円也
 株式会社 三井住友銀行 様 金參萬円也

株式会社 東芝 様 金參萬円也
 富士電機株式会社 様 金參萬円也
 本田技研工業株式会社 様 金參萬円也

その他 津田 泉 様 金五万円也

(個人賛助金)

千葉県 錦織春海 様 金五萬円也
 千葉県 前田國朝 様 金參萬円也
 神奈川県 和田大雅 様 金貳萬円也
 石川県 富祐彬 様 金貳萬円也
 茨城県 鷲元明俊 様 金壹萬円也
 千葉県 田中新太郎 様 金壹萬円也
 東京都 西土真芳 様 金壹萬円也
 東京都 深山祐 様 金壹萬円也
 神奈川県 和田弘雅 様 金壹萬円也
 長野県 東孝二 様 金壹萬円也
 静岡県 友田達祐 様 金壹萬円也
 富山県 川原武二 様 金壹萬円也
 岐阜県 田尻和光 様 金壹萬円也
 愛知県 石川仁 様 金壹萬円也
 広島県 大平貫脩 様 金壹萬円也
 広島県 山崎啓司 様 金壹萬円也
 山口県 有限会社 公益社 様 金壹萬円也
 岩手県 前川カツエ 様 金五万円也
 岩手県 岡田敏子 様 金五万円也
 千葉県 吉原健一 様 金五万円也
 富山県 辺城正隆 様 金五万円也
 岐阜県 加藤喜内 様 金五万円也
 岐阜県 藤田真人 様 金五万円也
 広島県 藤井昭典 様 金五万円也
 広島県 高橋英士 様 金五万円也
 広島県 高橋美香 様 金五万円也
 広島県 山根由美子 様 金五万円也
 広島県 山根聡 様 金五万円也
 氏名掲載不希望者一名 金九萬五万円也

収 支 計 算 書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入	900,000	801,050	98,950	
② 分担金収入	9,300,000	9,285,000	15,000	
③ 補助金等収入	4,500,000	4,205,000	295,000	
④ 寄付金収入	26,500,000	26,039,000	461,000	
⑤ 雑収入	3,186,000	4,552,594	-1,366,594	
事業活動収入計	44,386,000	44,882,644	-496,644	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出	26,753,000	26,293,448	459,552	
② 管理費支出	16,022,000	13,398,860	2,623,140	
事業活動支出計	42,775,000	39,692,308	3,082,692	
事業活動収支差額	1,611,000	5,190,336	-3,579,336	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① 退職給付引当資産取崩収入	0		0	
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
① 公益事業積立資産取得支出	3,000,000	2,000,000	1,000,000	
② 退職給付引当資産取得支出	470,000	462,000	8,000	
投資活動支出計	3,470,000	2,462,000	1,008,000	
投資活動収支差額	-3,470,000	-2,462,000	-1,008,000	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出	財務活動支出計	0	0	0
	財務活動収支差額	0	0	0
	当期収支差額	-1,859,000	2,728,336	-4,587,336
	前期繰越収支差額	14,761,718	14,761,718	0
	次期繰越収支差額	12,902,718	17,490,054	-4,587,336

貸 借 対 照 表

平成26年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減	
I 資産の部				
1. 流動資産	流動資産合計	17,626,254	15,026,022	2,600,232
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
基本財産合計	118,976,241	119,108,934	-132,693	
(2) 特定資産				
退職給付引当資産	3,015,000	2,553,000	462,000	
公益事業費用積立資産	8,000,000	6,000,000	2,000,000	
特定資産合計	11,015,000	8,553,000	2,462,000	
(3) その他固定資産				
什器備品	259,773	395,307	-135,534	
その他固定資産合計	259,773	395,307	-135,534	
固定資産合計	130,251,014	128,057,241	2,193,773	
資産合計	147,877,268	143,083,263	4,794,005	
II 負債の部				
1. 流動負債	流動負債合計	136,200	264,304	-128,104
2. 固定負債	固定負債合計	3,015,000	2,553,000	462,000
	負債合計	3,151,200	2,817,304	333,896
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産	指定正味財産合計	115,169,852	115,301,232	-131,380
	(うち基本財産への充当額)	(115,169,852)	(115,301,232)	-(131,380)
	(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	一般正味財産合計	29,556,216	24,964,727	4,591,489
	(うち基本財産への充当額)	(3,806,389)	(3,807,702)	-(1,313)
	(うち特定資産への充当額)	(8,000,000)	(6,000,000)	(2,000,000)
	正味財産合計	144,726,068	140,265,959	4,460,109
	負債及び正味財産合計	147,877,268	143,083,263	4,794,005

正味財産増減計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
①基本財産運用益	799,737	890,687	-90,950	
②受取会費	9,285,000	9,245,000	40,000	
③受取補助金等	4,205,000	5,000,000	-795,000	
④受取寄附金	26,039,000	28,221,000	-2,182,000	
⑤雑収益	4,552,594	3,594,865	957,729	
経常収益計	44,881,331	46,951,552	-2,070,221	
(2) 経常費用				
①事業費	31,761,729	32,219,789	-458,060	
②管理費	8,528,113	9,530,770	-1,002,657	
経常費用計	40,289,842	41,750,559	-1,460,717	
評価損益等調整前当期経常増減額				
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益合計				
当期経常増減額	4,591,489	5,200,993	-609,504	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	4,591,489	5,200,993	-609,504	
一般正味財産期首残高	24,964,727	19,763,734	5,200,993	
一般正味財産期末残高	29,556,216	24,964,727	4,591,489	
II 指定正味財産増減の部				
1. 指定正味財産増加額	659,355	751,055	-91,700	
2. 一般正味財産への振替額	790,735	882,435	-91,700	
当期指定正味財産増減額	-131,380	-131,380	0	
指定正味財産期首残高	115,301,232	115,432,612	-131,380	
指定正味財産期末残高	115,169,852	115,301,232	-131,380	
III 正味財産期末残高	144,726,068	140,265,959	4,460,109	

財 産 目 録

平成26年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	142,297
預金	普通預金	運転資金として	17,219,927
郵便振替	ゆうちょ銀行新井支店	運転資金として	264,030
流動資産合計			17,626,254
(固定資産)			
基本財産	投資有価証券	第45回変動利付国債(15年)他	118,976,241
特定資産	定額預金	中野新井郵便局	3,015,000
	定期預金	三井住友銀行中野支店	5,000,000
	定期預金	三井住友銀行中野支店	3,000,000
その他固定資産	什器備品	カードプリンタ	259,773
固定資産合計			130,251,014
資 産 合 計			147,877,268
(流動負債)			
未払金	社会保険庁に対する未払金	雇用者負担分社会保険料	68,475
預り金	社会保険庁に対する支払い分	本人負担分社会保険料	67,725
流動負債合計			136,200
(固定負債)			
	退職給付引当金	従業員2名に対する退職金の支払いに備えたもの	3,015,000
固定負債合計			3,015,000
負 債 合 計			3,151,200
正 味 財 産			144,726,068

＊平成二五年度管理業務関係報告

一 会議関係

主要会議

1 第四回理事会(常会)

日時 平成二五年五月一四日

場所 東京都中野区 矯正会館四階第一

会議室

出席者 総数 一八名

出席理事二名・欠席理事一名

監事二名・事務局二名・オブザー

バー(矯正局)二名

議事

第一号議案 『平成二四年度事業報告及び

附属明細書の承認』の件(承認事項)

第二号議案 『平成二四年度計算書類(貸

借対照表及び正味財産増減計算書)及び

附属明細書並びに財産目録の承認』の件

(承認事項)

第三号議案 『評議員会の日時及び場所並

びに目的である事項等』の件(決議事項)

第四号議案 『諸規程の制定』の件(決議

事項)

第五号議案 『個人寄附金の募金』の件(決

議事項)

報告事項

①平成二四年度の寄附募金結果について

②JKAからの補助金について

2 第二回評議員会

日時 平成二五年六月一〇日

場所 東京都千代田区 法務省矯正局

二〇階第一会議室

出席者 総数 三〇名

出席評議員数一八名

欠席評議員数 九名

その他の出席者

理事長一名・副理事長四名・監事

二名・参与一名・事務局二名・オ

ブザーバー(矯正局)二名

議事

第一号議案 『平成二四年度事業報告及び

附属明細書の承認』の件(決議事項)

第二号議案 『平成二四年度計算書類及び

附属明細書並びに財産目録の承認』の件

(決議事項)

第三号議案 『役員等の選任・解任』の件

(決議事項)

報告事項

①平成二五年度事業計画について

②諸規程の制定について

③中央研修会について

④JKAからの補助金について

3 第五回理事会(臨時会)

日時 平成二五年六月二四日

場所 京都府京都市 西本願寺 伝道本

部三階会議室六

出席者 総数 二二名

西本願寺

大谷総裁

園城総長・本多総務・楠社会部

長 教誨師連盟

理事長一名・副理事長三名・参与
一名・理事九名・監事二名・事務
局二名

議事

報告事項

①評議員会の開催状況について

②副理事長の交代について

議題

①個人寄付金について

②教誨師研修のあり方について

③その他

4 第六回理事会(常会)

日時 平成二六年二月二七日

場所 東京都千代田区 法務省矯正局

二〇階第一会議室

出席者 総数 二六名

出席理事二名・欠席理事一名

監事二名・事務局二名

矯正局 西田局長 以下九名

決議事項

①『平成二六年度事業計画書及び収支予算

書の承認』の件

②『諸規程の改正・制定』の件

報告事項

①賛助寄附金を募集することについて

②教誨師からの寄附金について

③教誨師マニユアル準備委員会に関する中

間報告について

④教誨師研修全国大会・地方大会に関する

報告 ⑤代表理事・執行理事からの業務報告

⑥JKAからの補助金について

その他の会議

1 総裁への業務報告

日時 平成二五年五月七日
場所 京都府京都市 西本願寺
出席者 総数 五名

大谷総裁・本多西本願寺総務・楠西本願寺社会部長

平野理事長・龍田事務長

主な報告事項

・公益財団法人移行後の活動状況
・平成二五年度事業計画及び収支予算書について

2 監事会

日時 平成二五年四月二三日
場所 東京都中野区 矯正会館四階
第一会議室

出席者 総数 五名

中川文隆監事・榎研治監事
平野理事長・近藤副理事長
龍田事務長

議事

3 管区連盟事務局長会議

日時 平成二六年一月一七日
場所 東京都中野区 矯正会館四階第一
会議室

出席者 総数 一五名

山田参与・平野理事長
舎奈田・近藤・冨副理事長
札幌管区連盟 天野広輝
仙台管区連盟 徳力賢隆

東京管区連盟 中川文隆
名古屋管区連盟 楠原純孝
(副会長)

大阪管区連盟 松林俊明

広島管区連盟 高橋 哲(主事)

高松管区連盟 田村正教

福岡管区連盟 川崎文丸

事務局 龍田恒夫・仲澤芳典

連絡・協議事項

・賛助寄附金の募金について
・全国教誨師連盟の役員等の交代事務手続きについて
・教誨師委嘱解嘱の事務手続きについて
・その他

・教誨師からの寄附金の取り扱いについて
平成二五年度の地方研修会関係費用について

会議等の日程について

研修会の日程について

JKAについて

4 正・副理事長会議

(1) 第八回 平成二五年五月一日
場所 東京都中野区 矯正会館第二
会議室

出席人員 五名

議事

・諸規程の改廃等について

・管区研修会の助成について
・弔慰金送付文書について
・法務大臣感謝状受賞者に対する記念品について

(2) 第九回 平成二五年五月九日
場所 東京都千代田区 法務省矯正局
一四階会議室

出席人員 六名

議事

・理事会資料の確認について

(3) 第一〇回 平成二五年六月一〇日
場所 東京都千代田区 法務省矯正局
二〇階会議室

出席人員 七名

議事

・個人寄附金について

・中央研修会について

(4) 第一一回 平成二五年一月五日
場所 東京都中央区 築地本願寺
会議室

出席人員 六名

議事

・個人寄附金について

・真宗大谷派報恩講について

・新年あいさつ回りの日程について

・賀詞交歓会について
・法務省矯正局と全国教誨師連盟との意見交換会について

(5) 第一二回 平成二五年一月三〇日

場所 東京都中野区 矯正会館第二
会議室

出席人員 七名

議事

- ・ 諸規程の改訂について
- ・ 会議日程について
- ・ 平成二六年度事業計画について

二 各種行事等への出席等

1 平成二五年四月一日 平野理事長、富副理事長、龍田事務長が、名古屋刑務所で行われた、名古屋矯正管区教誨師連盟の理事会に出席した。

2 平成二五年五月一六日 平野理事長が法務省大会議室で行われた、春の褒章伝達式に参列した。

3 平成二五年一〇月二六日 平野理事長、龍田事務長が日本経団連、経済同友会、東京商工会議所に赴き、寄附募金の協力を依頼した。

4 平成二五年一〇月七日 富副理事長、龍田事務長が、名古屋管区において行われた全国教誨師大会打ち合わせ会において、式典においての受賞者接遇について依頼した。

5 平成二五年一〇月二日 平野理事長が仏教伝道センタービルで行われた、仏教伝道文化賞贈呈式に参列した。

6 平成二五年十一月三日 平野理事長が法務省大会議室で行われた、秋の褒章伝達式に参列した。

7 平成二五年十一月二四日 富副理事長が真宗大谷派報恩講に参列した。

8 平成二六年一月七日 平野理事長、舎奈

田副理事長、龍田事務長が矯正協会賀詞交換会に出席した。

9 平成二六年一月八日 平野理事長、舎奈田副理事長、近藤副理事長、龍田事務長が寄附募金活動の一環として経団連等へ新年あいさつ回りを行った。

10 平成二六年二月一〇日 仲澤主事が法務省地下大会議室で開かれた「社会を明るくする運動中央推進委員会」に出席した。

三 公益財団法人JKAの競輪公益資金補助事業

関係

1 平成二五年四月二三日 平成二五年度分補助金額内示 三、九〇五、〇〇〇円

2 平成二五年五月八日 平成二五年度分補助金交付申請書提出 三、九〇五、〇〇〇円

3 平成二五年五月二五日 平成二五年度分補助金交付決定通知 三、九〇五、〇〇〇円

4 平成二五年九月一七日 平成二六年度分補助金要望書提出 一五、三四五、〇〇〇円

5 平成二五年一二月三日 平成二五年度分補助金精算払申請書提出 三、九〇五、〇〇〇円

6 平成二六年一月三〇日 平成二五年度分補助金の入金 三、九〇五、〇〇〇円

7 平成二六年二月三日 平成二五年度分補助事業の完了報告書提出

四 その他

1 平成二五年三月二五日 内閣府に平成二五年度分の「事業計画等に係る提出書」を

電子申請により提出した。

2 平成二五年六月二七日 内閣府に平成二四年度分の「事業報告等に係る提出書」を電子申請により提出した。

3 平成二六年三月一九日 内閣府に平成二六年度分の「事業計画等に係る提出書」を電子申請により提出した。

✳ 平成二六年度事業計画

一 教誨師研修事業

教誨師及び教誨師になろうとする宗教家を対象とし、教誨活動を充実発展させるために教誨師として必要な幅広い知識の蓄積と教誨技術の習得、向上を図るため、全ての教誨師等が均しく研修会に参加できるように中央研修会を行うとともに各矯正管区教誨師連盟（任意団体）に委託して毎年開催県を変えながら全国八か所の地方において能力開発のための研修を行う。

また、教誨師研修会に参加できなかった教誨師等に対しても同様の知識等の吸収を可能ならしめるため、教誨師中央研修会の状況を記録した機関紙「教誨」及び地方研修会を含めた記録を電子化した研修会記録CDを毎年一回、当連盟の活動状況及び主な教宗団における教誨師の研修状況等を記載した機関紙「教誨師連盟だより」を年二回発行し、全ての教誨師、矯正施設、並びに多くの教宗団、その他に無料で頒布する。

平成二四年度から、教誨活動に資するため

の「教誨マニユアル」を作成するための準備委員会を立ち上げた。

1 第四九回教誨師中央研修会

日 程 平成二六年九月一日(月)～三日

(水)

場 所 東京都千代田区

参加予定人員 一一〇名

2 第五〇回札幌矯正管区教誨師研修大会

日 程 平成二六年六月二四日(火)～二五

日(水)

場 所 北海道札幌市中央区

参加予定人員 一六〇名

3 第五六回仙台矯正管区教誨師研修宮城大会

日 程 平成二六年一〇月一六日(木)～

一七日(金)

場 所 宮城県仙台市

参加予定人員 一八五名

4 第五八回東京矯正管区教誨師研修千葉大会

日 程 平成二六年六月二三日(月)～二四

日(火)

場 所 千葉県千葉市美浜区

参加予定人員 三五〇名

5 第三五回全国教誨師大会(第五八回名古屋矯正管区教誨師研修大会(名古屋)併催)

日 程 平成二六年六月一八日(水)～一九

日(木)

場 所 愛知県名古屋市中区

参加予定人員 五九〇名

6 第六二回大阪矯正管区教誨師研修大会

日 程 平成二六年十一月一八日(火)

場 所 京都府京都市

参加予定人員 一六〇名

7 第四一回広島矯正管区教誨師研修大会

日 程 平成二六年六月二六日(木)～二七

日(金)

場 所 島根県松江

参加予定人員 一四〇名

8 平成二六年度高松矯正管区教誨師研修会

日 程 平成二六年七月一七日(木)

場 所 香川県高松市

参加予定人員 一一四名

9 第一九回福岡矯正管区教誨師長崎施設研修会

日 程 平成二六年二月一九日(水)～

二〇日(木)

場 所 長崎県諫早市

参加予定人員 二〇一名

「教誨マニユアル」作成準備委員会

費用総額

三三〇、〇〇〇円

二 教誨師顕彰等事業

長年多数回にわたり教誨活動に従事している教誨師を顕彰し、当人はもとより他の教誨師にも励みとなり、更に教誨活動に精励するよう鼓舞するとともに、矯正施設においてボランティアとしての教誨活動が被收容者等の改善更生への一助となっていることを広く社会に発信する事業。

費用総額

四〇三、〇〇〇円

三 教誨活動等に関する情報収集等事業

より有意義な研修を計画し、また教誨師としてより有為な宗教家を推薦してもらうため、教誨師研修や教誨師選任に関して、教宗団代表者から情報を得、また関連事項の調整、並びに教誨活動の活発化等のための提言事業。

教宗団の本部が集中している京都と東京で、

情報交換等の協議会を行う。

費用総額

五六〇、〇〇〇円

法務省矯正局との意見交換会

費用総額

一八〇、〇〇〇円

四 教誨師選任事業

憲法の規定により国自体の宗教活動が禁止されていることから、教誨活動を行う教誨師を選ぶために、国は自ら宗教家と接触することができない。

国に代わり、全国の矯正施設が必要とする教

予算額

中央研修会

費用総額

三、六七〇、〇〇〇円

参加費等収入

二、八四〇、〇〇〇円

地方研修会(八か所)

費用総額

一六、七五〇、〇〇〇円

補助金等収入

四、八〇〇、〇〇〇円

「教誨」誌

費用総額

一、五五〇、〇〇〇円

研修会記録CD

費用総額

二〇〇、〇〇〇円

「教誨師連盟だより」

費用総額

八〇〇、〇〇〇円

誨師を選任するため関係する宗教団体と協議して有能な宗教家を推薦してもらい、あるいは教誨師を希望する宗教家に対してその資格を審査し、適切な矯正施設へ紹介する事業。ちなみに現在一、八七〇名の教誨師を擁し、その所属する教宗団は一〇〇を超えている。また、毎年一〇〇名近くの宗教家を新たに教誨師として委嘱している。

教誨師の選任が公正に行われていることを証するため、矯正施設別の所属教誨師名を記載した教誨師名簿を二年に一回発行し、全ての教誨師、矯正施設、並びに多くの教宗団、その他に無料で頒布している。

教誨師選任

費用総額

五〇、〇〇〇円

(減価償却費一三五、〇〇〇円は含まない。)

教誨師名簿(平成二六年度は発行しない。)

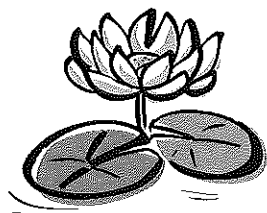
共通経費

三五〇、〇〇〇円

事業に要する費用額合計

二四、八四三、〇〇〇円

○借入れによる資金調達及び設備投資の予定はない。



収支予算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①基本財産運用収入	900,000	900,000	0	
②分担金収入	9,300,000	9,300,000	0	
③補助金等収入	3,400,000	4,500,000	-1,100,000	
④寄付金収入	26,200,000	26,500,000	-300,000	
⑤雑収入	3,144,000	3,186,000	-42,000	
事業活動収入計	42,944,000	44,386,000	-1,442,000	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	24,843,000	26,753,000	-1,910,000	
②管理費支出	17,594,000	16,022,000	1,572,000	
事業活動支出計	42,437,000	42,775,000	-338,000	
事業活動収支差額	507,000	1,611,000	-1,104,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
①退職給付引当資産取崩収入			0	
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
①退職給付引当資産取得支出	485,000	470,000	15,000	
②公益事業積立資産取得支出	2,000,000	3,000,000	-1,000,000	
投資活動支出計	2,485,000	3,470,000	-985,000	
投資活動収支差額	-2,485,000	-3,470,000	985,000	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	-1,978,000	-1,859,000	-119,000	
前期繰越収支差額	12,902,718	14,761,718	-1,859,000	
次期繰越収支差額	10,924,718	12,902,718	-1,978,000	

公益財団法人全国教誨師連盟役員名簿

(平成26年6月)

役職	所属支部	氏名	所属宗派等	所属施設	備考
総裁		大谷光真	西本願寺前門主		非常勤・無報酬
顧問		但木敬一	元検事総長		同上
同		沼田智秀	仏教伝道協会会長		同上
参与	東京矯正管区連盟	山田義俊	浄土真宗本願寺派	愛光女子・府中刑	同上
同	東京矯正管区連盟	平野俊興	浄土真宗本願寺派	東京拘	同上
理事長	東京矯正管区連盟	近藤哲城	浄土真宗本願寺派	川越少刑	同上
副理事長	東京矯正管区連盟	舎奈田経夫	真言宗豊山派	東京拘	同上
同	東京矯正管区連盟	深山祐	日本基督教団	府中刑	同上
同	名古屋矯正管区連盟	石川宣	真宗大谷派	愛知少	同上
同	広島矯正管区連盟	疋田英順	日蓮宗	広島刑・広島拘	同上
理事	札幌矯正管区連盟	松本哲朗	浄土真宗本願寺派	札幌刑	同上
同	仙台矯正管区連盟	島地興霖	浄土真宗本願寺派	盛岡少刑・盛岡少	同上
同	東京矯正管区連盟	中川文隆	神社本庁	府中刑	同上
同	大阪矯正管区連盟	井上廣	天理教	京都医少	同上
同	大阪矯正管区連盟	寶束正彦	神社本庁	大阪刑・大阪拘	同上
同	大阪矯正管区連盟	時久忠夫	プロテスタント	姫路少刑	同上
同	高松矯正管区連盟	長尾恵證	高野山真言宗	高松刑	同上
同	福岡矯正管区連盟	熊本義秀	浄土真宗本願寺派	福岡刑・福岡拘	同上
同	福岡矯正管区連盟	後藤法龍	浄土真宗本願寺派	熊本刑	同上
監事	東京矯正管区連盟	竹岡郁雄	浄土真宗本願寺派	八王子医刑	同上
同	名古屋矯正管区連盟	横研治	曹洞宗	名古屋刑	同上

公益財団法人全国教誨師連盟評議員名簿

(平成26年6月)

所属	氏名	所属宗派等	所属施設	備考
札幌矯正管区連盟	相河孔明	真宗大谷派	月形刑	非常勤・無報酬
札幌矯正管区連盟	宮本正尊	真宗大谷派	北海少・紫明女子	同上
仙台矯正管区連盟	伊達廣三	曹洞宗	宮城刑	同上
仙台矯正管区連盟	井澤隆徳	浄土宗	山形刑	同上
東京矯正管区連盟	増田廣神	浄土真宗本願寺派	水戸刑	同上
東京矯正管区連盟	池田賢勇	真宗大谷派	喜連川C	同上
東京矯正管区連盟	鈴木國弘	カトリック	川越少刑	同上
東京矯正管区連盟	遠藤了義	日蓮宗	千葉刑	同上
東京矯正管区連盟	和田大雅	真言宗御室派	横浜刑	同上
東京矯正管区連盟	五十嵐紀典	曹洞宗	新潟刑	同上
東京矯正管区連盟	三澤宥智	真言宗智山派	松本少刑	同上
名古屋矯正管区連盟	林精應	真宗三門徒派	福井刑	同上
名古屋矯正管区連盟	河合義雄	天理教	岐阜刑	同上
名古屋矯正管区連盟	楠原純孝	浄土真宗本願寺派	名古屋刑	同上
大阪矯正管区連盟	治田義行	真宗大谷派	滋賀刑	同上
大阪矯正管区連盟	北畠顕諒	真宗大谷派	和泉学園・大阪刑	同上
大阪矯正管区連盟	脇屋好照	真宗興正派	奈良少刑・奈良少	同上
大阪矯正管区連盟	阪口隆俊	高野山真言宗	和歌山刑	同上
広島矯正管区連盟	櫻井宥祥	高野山真言宗	鳥取刑	同上
広島矯正管区連盟	小林哲朗	日蓮宗	松江刑	同上
広島矯正管区連盟	桑羽隆慈	浄土真宗本願寺派	美祿C	同上
高松矯正管区連盟	西村宗純	臨濟宗妙心寺派	徳島刑	同上
高松矯正管区連盟	久保博巳	真宗大谷派	高松刑	同上
福岡矯正管区連盟	渡邊和弘	日蓮宗	北九州医療	同上
福岡矯正管区連盟	堤暢之	神社本庁	佐世保刑	同上
福岡矯正管区連盟	薬師寺哲雄	浄土真宗本願寺派	大分刑	同上
福岡矯正管区連盟	工藤海要	日蓮宗	宮崎刑	同上

※公益財団法人JKAの公益資金補助事業

一 平成二五年度の競輪公益資金による補助事業は、平成二六年二月三日、地方研修担当事務局に次のとおり送金しました。

札幌管区	五六〇、〇〇〇円
仙台管区	四三三、二〇〇円
東京管区	六六四、〇八三円
名古屋管区	四〇一、九三〇円
広島管区	三六三、七八七円
高松管区	三〇〇、〇〇〇円
福岡管区	二五七、〇〇〇円
中 央	九二五、〇〇〇円
総 額	三、九〇五、〇〇〇円

二 平成二六年度の競輪公益資金による補助事業総額を三〇、六九二、〇〇〇円とし、その半額の一五、三四五、〇〇〇円の補助を申請しましたが、本年五月二〇日付けで補助金総額三、三六六、〇〇〇円の決定通知書の送達がありました。

札幌管区	五〇八、〇〇〇円
仙台管区	四四五、〇〇〇円
東京管区	五五〇、〇〇〇円
名古屋管区	三四一、〇〇〇円
広島管区	三六八、〇〇〇円
高松管区	二四五、〇〇〇円
福岡管区	二五七、〇〇〇円
中 央	六五二、〇〇〇円
総 額	三、三六六、〇〇〇円

三 補助事業として研修会を実施する担当事務局は、証拠書類処理については「平成二六年五月二〇日付補助事業研修会支出証拠書類及び研修会事務処理方法について」、「補助事業実施に関する事務手続要領」を参考にしてください。残余の金額は全て減額処理されますので注意してください。

四 公益財団法人JKAに報告書を提出するため、研修会終了後は速やかに実施報告書を提出してください。

研修会実施証拠写真は全て、画面隅に撮影年月日が写り込むように設定したデジタルカメラで撮影し、データはCD又は電子メールに添付して送付してください。

五 決算書（証拠書類等）は研修大会終了後速やかに処理し、早めに提出してください。JKAへの精算払い申請が遅れますと、JKAから遅延理由書の提出を求められ、研修開催地への補助金の送金にも影響が出ます。

六 平成二七年度の補助金要望書については、各管区連盟を通じて関係書類の提出を依頼しました。（提出期限 平成二六年八月一五日）

競輪公益資金による補助事業完了のお知らせ

この度平成二五年度の競輪公益資金の補助金を受けて、次の事業を完了いたしました。

記

- 1 事業名
平成二五年度地域社会の安全・安心に資する活動補助事業
- 2 事業の内容
ア 教誨師中央研修会
イ 教誨師地方研修会（全国七か所）
- 3 補助金額 三、九〇五、〇〇〇円
- 4 完了年月日 平成二五年一〇月三〇日

あとがき

◆つい最近新しい年を迎えたような感覚で日々を過ごしていましたが、早や半年が過ぎました。今年の夏は、エルニーニョ発生で、冷夏！長梅雨、集中豪雨、低温…夏物商戦、農作物に大きな影響がでるのでは？との長期予報が出され、その影響が心配されますが、早速、台風八号による大雨や土石流による甚大な被害が発生しました。人間の英知を超えた自然の営みと言えはそれまでですが、人間が自然のリズムを狂わせたこの思いをいたしているのは私だけでしょうか。◆『教誨師連盟だより』No.四七号をお届けいたします。先生方の益々の御活躍をお祈りいたしております。（事務局 仲澤）